

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
フレッシューズセミナー	講義	1単位 (15時間)	1年前期	西村泰治 宮里邦子 弓岡光徳 近藤敏

授 業 概 要

新入生全員を対象とした初年次教育講座と位置づけ、高等学校時代とは異なる大学生として、大学とは如何なるところで何をどのように学ぶのか目的を明確にして、様々な学修課題を解決するために SNS や図書館での検索方法を学ぶ。医療に携わる職種を選択した学生同士として討議を通して仲間づくりを行い切磋琢磨する意識やチームワーク力や表現力を学び、個々のキャリアについても思考し、4年間の大学生活を有意義に実りあるものとして過ごせるような基盤づくりを行う。

到 達 目 標

1. 大学で学ぶ意義を理解できる
2. 学修課題の解決方法を理解し検索できる
3. レポートの書き方を理解し意図が伝わるように表現できる
4. チームで課題に取り組みメンバーと協働できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		大学について知る	大学について知る 建学の精神「健康科学とは」	全員
2		情報リテラシー	課題解決のための検索方法 (SNS について、タブレットの利用法)	全員
3		大学での学修の基本	ノートのとり方、レポートの書き方、図書館の利用法	全員
4		レポート作成	自分を紹介する、他人を紹介するレポート作成	全員
5		チームワーク プレゼンテーション	身近で親しみやすい話題を取り上げ、異なる学部の学生とチームを組み発表や討論の技術・方法を学ぶ	全員
6		レポート発表会	レポート発表会	全員
7		領域横断的な学問	異なる学問視点から共通のテーマについて	全員
8		キャリアをめぐる社会状況	10年後のキャリアを考える (学びのマッピング)	全員

評 価	課題レポート (100%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
教育学	講義	1単位 (15時間)	1年後期	佐喜本愛

授業概要
<p>教育は歴史・社会・文化のすべての全体的な関連の中で営まれる。そこで、教育の目的と内容を理解し、近代の学校の成立と西欧や日本の歴史の変遷を概観し、「人間のための教育」という視点から、そこに見られる主な問題、とりわけ現代的課題である貧困や福祉の現状、医療と教育について検討していく。さまざまな具体的な教育思想や実践事例などを紹介しながら医療教育についても現状や課題などを考える。本科目では教育学の基本的な概念や知識、現代の教育における問題について学修する。</p>

到達目標
<p>1. 教育の歴史が理解できる 2. 人間の成長と教育の意義・目的について説明できる 3. 教育の抱える現代的課題について具体的に説明できる</p>

事前学習・事後学習
<p>事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする</p>

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単元	内容	担当教員
1	月 日	教育の目的と内容	授業ガイダンス 教育の目的と内容	佐喜本愛
2	月 日	近代の学校成立とその変遷	近代における学校成立の理由とその変遷	佐喜本愛
3	月 日	家庭教育の変遷	家族・地域・学校の構造変化と教育の関係	佐喜本愛
4	月 日	社会教育の定義と学校教育の違い	生涯教育から生涯学習への転換と社会構造の変化	佐喜本愛
5	月 日	現代的課題と教育1（貧困）	教育と貧困について（日本、中国、アメリカ、ヨーロッパ）	佐喜本愛
6	月 日	現代的課題と教育2（福祉と教育）	福祉と教育の現状（日本、中国、ヨーロッパ）	佐喜本愛
7	月 日	現代的課題と教育3（医療と教育）	医療と教育の現状と課題	佐喜本愛
8	月 日	まとめ	まとめ	佐喜本愛

評価	受講態度、提出レポート類、学期末試験から総合的に勘案して評価します。
教科書	なし
参考図書等	授業中に適宜紹介します。
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
心理学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	山口雄介

授 業 概 要

本科目では基礎心理学と応用（臨床）心理学の知識を学び、心理学を日常生活に応用できるようになることを目的とする。人間の生活基盤としての「個人・集団」の関係形成、心理および行動について理解する。人間は人との関係の中で生活しているが、人間の「心」の在りようは複雑で、その在りようが身体にも他者との関係にも影響する。心理学の伝統的方法と行動的方法をもとに人間理解の具体的方法を学ぶ。心理学は人のこころの動きや、そこから生じる行動について探究する学問である。心理学を日常生活に活用できるように学修する。

到 達 目 標

1. 心理学の全体像について説明できる
2. 人のこころの基本的な仕組みと働きについて理論を用いて説明できる
3. 本科目での学びを日常生活に活用できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておく
 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	心理学とは	オリエンテーション 心理学の分野、心理学の全体像	山口雄介
2	月 日	知覚	人間の視覚の仕組みについて、錯視図形（「図と地」「ゲシュタルト」）の概念について	山口雄介
3	月 日	学習	人間が学習する仕組み「古典的条件づけ」、「オペラント条件づけ」、「観察学習」、「学習された無力感」の概念	山口雄介
4	月 日	記憶	記憶のメカニズム（「記銘」・「保持」・「再生」）や記憶の変容など 記憶力をアップさせる記憶方略	山口雄介
5	月 日	発達	エリクソンの「発達漸成説」、人間の生涯にわたる発達段階と発達課題について	山口雄介
6	月 日	青年（1）	青年期の区分 青年期の心理的特徴（「自己意識の高まり」、「劣等感と理想の追求」、「友情と恋愛」）	山口雄介
7	月 日	青年（2）	青年期の鍵概念である「アイデンティティ」について 「アイデンティティ・ステータス」、「モラトリアム」、「時間的展望」	山口雄介
8	月 日	性格	性格を分類・記述する理論として「類型論」と「特性論」や各種心理療法に関連する人格理論心理テスト体験	山口雄介
9	月 日	自己「自己とは何か？」	「自己概念」、「主体としての自己」、「物語的文脈としての自己」の3つの見地	山口雄介
10	月 日	家族	家族心理学の観点、「家族の発達段階」と「家族関係の病理（家庭内暴力、DV）」	山口雄介
11	月 日	心の病理と健康（1）心の健康性	「適応と不適応」、「欲求階層説」、健康な人間像に関する理論の一つとして、ロジャーズの「十分に機能している人間」について	山口雄介
12	月 日	心の病理と健康（2）精神障害	「外因性」、「内因性」、「心因性」の病因論による分類 思春期・青年期の心理的問題（不登校、引きこもり、自殺など）について	山口雄介
13	月 日	心の病理と健康（3）ストレス理論	「ストレスマネジメント」によって健康を回復・維持する必要性 ワークを交えながらストレス対処力の向上	山口雄介
14	月 日	社会	対人認知とコミュニケーションと対人行動（人間の行動は社会的な文脈や文化に影響を受ける）	山口雄介
15	月 日	まとめ	授業全体の振り返り、要点のまとめ	山口雄介

評 価	ミニレポート（40%）と定期試験（60%）により評価する。
教科書	はじめてふれる心理学 [第2版]
参考図書等	授業中に適宜紹介する。
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
発達心理学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	山口雄介

授 業 概 要

既修の「心理学」と関連させながら、心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフサイクルを視野にいれながら、ここでは胎児期から乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に時間の経過とともに質的及び量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、医療の対象である人間の誕生から老年期に至る生涯発達の過程において、各期の発達と課題を学ぶことで、医療に還元できる知識や探索の仕方を学修する。

到 達 目 標

1. 人間の生涯発達の理論について説明できる
2. 幼児期の発達と課題について説明できる
3. 児童期の発達と課題について説明できる
4. 思春期の発達と課題について説明できる
5. 成人期の発達と課題について説明できる
6. 中年期の発達と課題について説明できる
7. 老年期の発達と課題について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておく

事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	発達心理学の基礎	授業ガイダンス 「発達の概念」、「人間発達の特殊性」、「発達段階と発達課題」について	山口雄介
2	月 日	発達心理学の理論①	人間の成長と成熟の過程、「学習理論」、「認知発達理論」、「社会的関係の中での発達理論」の観点	山口雄介
3	月 日	発達心理学の理論②	発達のプロセスと発達課題に関する「ライフサイクル論」と「ライフコース論」について	山口雄介
4	月 日	胎生期から新生児期まで	胎生期から新生児期までの発達 「個体発生のメカニズム」、「胎児への環境からの影響」「誕生と新生児の特徴」	山口雄介
5	月 日	乳児期の発達	乳児期の発達 「乳児期の特徴と身体発達」、「乳児期の認知的発達」、「対人関係の始まりと母子関係」について	山口雄介
6	月 日	幼児期の機能と発達	幼児期における基本的な生活習慣の獲得 「知能」と「情動」と関連付けながら学習	山口雄介
7	月 日	幼児期の社会性	幼児期の社会性 「ことばの発達」や「親子関係から仲間関係」への対人関係の広がりに関連付けながら学習	山口雄介
8	月 日	児童期の発達	児童期における他者との関わりを通じた発達の様相 「身体的変化と成熟」、「学校生活の始まり」、「対人関係の発達」の観点から	山口雄介
9	月 日	乳児期から幼児期に生じる発達に関わる問題	乳児期から幼児期に生じる「発達障害」 発達障害に含まれる精神障害の分類や発達障害児への「合理的配慮」の実際について	山口雄介
10	月 日	青年期の発達	青年期の特徴と「自我同一性の獲得」について、青年期の「友人関係」「恋愛関係」	山口雄介
11	月 日	成人期の発達	青年期から成人期への移行に伴う「キャリア発達と社会生活」「キャリア発達理論」「家族の形成」	山口雄介
12	月 日	青年期以降のメンタルヘルスと精神保健	思春期・青年期の問題行動（「いじめと不登校」など）や精神病理 成人期の危機と職場のメンタルヘルス（「バーンアウト」など）	山口雄介
13	月 日	中年期の発達と危機	中年期の発達課題、「中年期のライフイベント」、そして「老い」の兆候が表れることによる心理過程	山口雄介
14	月 日	老年期の発達	老年期の発達に関して、「老いの特徴」、「老年期のパーソナリティと適応」、「老年期の不適応と障害」	山口雄介

15	月 日	「死」への対応、まとめ	「死に対する態度の発達」、「死の受容」、「残されたものの悲嘆」、「幸福な老いと最期」について 授業のまとめ	山口雄介
----	--------	-------------	--	------

評価	ミニレポート（40%）と定期試験（60%）により評価する。
教科書	発達心理学 15 講 北大路書房
参考図書等	授業中に適宜紹介する。
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
ジェンダー論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	宮崎聖子

授 業 概 要

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上でジェンダーは重要な視点の一つである。医療、健康、保健に関わる人材は、人間の生と性に関するジェンダーへの深い理解が求められる。ここでは文化・社会的な在りようとしてのジェンダーがどのように構築されてきたか、具体的な歴史やトピックをとりあげながら、ジェンダーに関わる諸相を理解する。自己のジェンダーに気づき理解を深め、人権問題、社会問題にも広く対処できるような素養を身に着けることを目的とする。

到 達 目 標

1. 人間の生と性の歴史や現状について知る
2. 人間の生と性の多様性について理解する
3. 現代のジェンダーをめぐる課題を知り、それについての対応を考えることができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	ジェンダーとは	ガイダンス、ジェンダー研究の課題、性をめぐる概念	宮崎聖子
2	月 日	フェミニズムの歴史	フェミニズムの歴史	宮崎聖子
3	月 日	近代家族の歴史	近代家族の歴史	宮崎聖子
4	月 日	多様な性	セクシャリティ、LGBT	宮崎聖子
5	月 日	ドメスティック・バイオレンス1	ジェンダーと暴力	宮崎聖子
6	月 日	ドメスティック・バイオレンス2	DV 防止法	宮崎聖子
7	月 日	リプロダクティブ・ヘルス・ライツ	リプロダクティブ・ヘルス・ライツ	宮崎聖子
8	月 日	グローバル化とジェンダー、まとめ	インドの事例	宮崎聖子

評 価	授業中に提出する小レポート 5 割、レポート 5 割で評価する。
教科書	講師資料
参考図書等	伊藤公男、牟田和恵編；ジェンダーで学ぶ社会学（全訂新版） 世界思想社 2015
留意事項	
オフィスアワー等	授業の後、またはメールによる。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
法学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	岡克彦

授 業 概 要

日本国憲法は「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の3つの柱から成り立っている。日本国憲法の基本的な考え方を知り、憲法が国家や社会の基礎をなしていることを理解する。「基本的人権」は侵すことのできない永久の権利であるが、基本的人権が法の下にどのように保障されているか学び、現在起こっている身近なもの結び付けて考えてみる。また「患者の権利」について具体的に検討し、臨地（床）の場で生じる様々な問題についても学修する。

到 達 目 標

1. 憲法とは、立憲主義とはどのようなものか説明できる
2. 人権の保障がどのように発展してきたか説明できる
3. 法が担う役割について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	法とは何か	授業ガイダンス 憲法とは何か、日常生活における法の役割	岡克彦
2	月 日	人権の概念・内容の理解	基本的人権とは	岡克彦
3	月 日	憲法第13条	幸福追求権と人権の関係、限界	岡克彦
4	月 日	立法権と行政権	立法権（国会の仕組みと働き）と行政権（内閣と行政間）	岡克彦
5	月 日	表現の自由	表現の自由について、伝える事由があるということ	岡克彦
6	月 日	民事と刑事とは	民事とは、刑事とは	岡克彦
7	月 日	患者の権利	最近の事例から患者の権利について考える	岡克彦
8	月 日	最近の事例から患者の権利について考える	最近の事例から医療者と法について考える まとめ	岡克彦

評 価	毎回の授業への出席状況および定期試験などにもとづいて総合的に成績を評価する。
教科書	特に指定しない。
参考図書等	1. 初宿正典ほか；いちばんやさしい憲法入門 第6版 有斐閣アルマ 2020 2. 手嶋豊；医事法入門 第5版 有斐閣アルマ 2018 3. 初川満；実践医療と法—医療者のための医事法入門 信山社 2016
留意事項	
オフィスアワー等	質問などは、授業時またはメールで行うこと。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
社会学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	山下亜紀子

授 業 概 要

人間は社会的存在であり、社会の在りように個人は影響を受ける。少子高齢社会、人口減少社会、情報化社会、無縁社会、多死社会など我々が暮らしている地域社会に関する諸問題に対して検討することで、自分がいまどのような位置にいるか見えてくる、それは自分がどう生きるかにつながる。我々が生活する社会を再度見直し考える事によって、我々が生きる現代社会の諸問題についての幅広い知識を身につけ、今後の社会について自らの視点をもって考え、物事にあたることができるように学修する。

到 達 目 標

1. 社会学の概要を説明できる。
2. 現代社会の人口変動がもたらす問題を説明できる。
3. 現代社会の福祉的課題や家族について説明できる。
4. 現代社会の課題や諸問題を説明できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	○ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	社会学とは	授業ガイダンス 社会学とは何かその概要	山下亜希子
2	月 日	近代社会 1	集団・組織—集団や組織の何が問題か、その視点・論点	山下亜希子
3	月 日	近代社会 2	家族—その普遍性・多様性・現代性—	山下亜希子
4	月 日	近代社会 3	都市—都市の見方、都市の姿	山下亜希子
5	月 日	近代社会 4	農山村—過疎化と高齢化の波	山下亜希子
6	月 日	近代社会 5	福祉—高齢化と支え合う社会—	山下亜希子
7	月 日	近代社会 6	社会問題・社会病理	山下亜希子
8	月 日	社会学的方法論 まとめ	社会調査—方法を理解する、作品を味わう— ・ 授業まとめ	山下亜希子

評 価	平常点（出席+受講態度）、課題提出状況、レポートにより総合的に評価する。 出席は毎回とることとする。また欠席 4 回以上の者は、その後の受講資格を失うものとする。
教科書	山本努編；現代の社会学的解読 新版—イントロダクション社会学— 学文社 2016
参考図書等	講義中に提示する。
留意事項	
オフィスアワー等	授業中。あるいは E-mail(yamashita.akiko.078@m.kyushu-u.ac.jp)にて連絡すること。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
倫理学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	倉田剛

授 業 概 要

現代は科学技術と医療技術の進歩が人間の生存に関してさまざまな倫理的問題を提起している。これから人々の健康に関わる学生にとって、人間の存在そのものや、生きる意味など、状況によっては多くのジレンマにも遭遇することが考えられる。その状況をどのように捉え、考え、対応していけばいいのか、困難な問題に突き当たったときのためにも倫理学の理論、学説、方法論の基本を学び、論理的な思考能力を身につけ、医療関係者として倫理的視点を養うように学修する。

到 達 目 標

1. 倫理とは何か説明できる
2. 倫理判断の基準と根拠について説明できる
3. 倫理的観点から具体的な事例を通して判断し説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	倫理学とは	イントロダクション 倫理学の課題	倉田剛
2	月 日	現代の倫理学	規範倫理学とメタ倫理学	倉田剛
3	月 日	功利主義 1	古典的な功利主義	倉田剛
4	月 日	功利主義 2	現代の功利主義	倉田剛
5	月 日	義務論 1	古典的な義務論	倉田剛
6	月 日	義務論 2	現代の義務論	倉田剛
7	月 日	応用倫理学	具体的な状況への応用	倉田剛
8	月 日	まとめ	授業のまとめ	倉田剛

評 価	平常点（授業への積極的な参加）と学期末試験の結果によって評価する。
教科書	毎回、資料を配布する。
参考図書等	適宜推薦する。
留意事項	とくになし。
オフィスアワー等	事前にメール等で連絡することが望ましい。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
人間関係論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	吉原克枝

授 業 概 要
人間は幼少期から成長する過程で様々な人間関係を経験する。その経験は個々の心と体の「健康」に大きな影響を与える。現代社会は常に変化しており、そこで生じる多様な人間関係も複雑化している。人間関係論はホーソンの実験により、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その因果関係を体系化した理論で人間関係の重要性を示したものである。医療に携わる学修者として人間関係づくりの基礎的知識を理解し、対象者となる人間理解と自己理解を深め、人々の健康課題に寄与できるように学修する。

到 達 目 標
1. 自己と他者の関係を説明できる 2. 発達に関わる人間関係の問題を説明できる 3. 現代の人間関係の諸問題について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	人間関係の諸相	授業ガイダンス 社会的動物としての人間と人間関係の発達	吉原克枝
2	月 日	自己の仕組みと働き	自己認知, 自己評価, 自己開示, 自己呈示が人間関係にもたらす影響	吉原克枝
3	月 日	対人認知と対人関係	対人認知と対人魅力 人間関係の維持と崩壊	吉原克枝
4	月 日	態度と説得	態度と態度変化の理論 説得的コミュニケーション	吉原克枝
5	月 日	援助と攻撃	攻撃のコントロール 援助行動	吉原克枝
6	月 日	集団	集団での課題遂行 集団での問題解決と意思決定	吉原克枝
7	月 日	職場の人間関係	リーダーシップとチームワーク	吉原克枝
8	月 日	保険医療における 人間関係	保健医療チームの人間関係 患者を支える人間関係	吉原克枝

評 価	レポート 60% 授業取組 (毎回の授業での振り返り等の課題) 40%
教科書	系統看護学講座基礎分野 人間関係論 医学書院
参考図書等	その他, 参考となる書籍, 文献については適宜授業にて紹介します
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
コミュニケーション論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	吉原克枝

授 業 概 要

コミュニケーションは私たちの生活のあらゆる場面に存在し、人間社会を成立させる重要な手段であり、人間の「考え・感情」を表現し、理解しあうことにつながる。健康課題を持つ対象に対応する医療関係者にとってこの能力は重要となる。本科目では多様なコミュニケーションにおいて、双方向の情報を正しく読み取り、適切に伝え、よりよいコミュニケーションをはかる手立てを探る力をつけることを目的に、医療に関する職業に携わる学修者として実践に活かせるように学修する。

到 達 目 標

1. コミュニケーションの概念について説明できる
2. 対人コミュニケーションの基礎について説明できる
3. コーチングについて説明できる
4. カウンセリングについて説明できる
5. コミュニケーションが社会に与える影響を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	コミュニケーションとは	授業ガイダンス コミュニケーションとは マスメディアとソーシャルメディアの社会的影響	吉原克枝
2	月 日	気持ちを分かち合う コミュニケーション	信頼関係を築く人の話の聴き方 会話を弾ませる質問と答えの仕方	吉原克枝
3	月 日	仕事を進める論理的 コミュニケーション1	仕事に必要な論理的な話の組み立て方	吉原克枝
4	月 日	仕事を進める論理的 コミュニケーション2	わかりやすい説明の技法	吉原克枝
5	月 日	コーチングとは	コーチングの技法	吉原克枝
6	月 日	カウンセリングとは	カウンセリングの技法	吉原克枝
7	月 日	アサーションとは	アサーティブ コミュニケーションの技法	吉原克枝
8	月 日	医療チームにおける コミュニケーション	チームエラーを防ぐためのコミュニケーション	吉原克枝

評 価	レポート 60% 授業取組（毎回の授業での振り返り等の課題） 40%
教科書	系統看護学講座基礎分野 人間関係論 医学書院
参考図書等	その他、参考となる書籍、文献については適宜授業にて紹介します
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
国際関係論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	山根健至

授 業 概 要

グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は 1 国のみ問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、国際関係論の理論的背景、歴史的経緯を理解し、紛争問題や貧困と格差など具体的な国際問題を検討することを通して、世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。

到 達 目 標

1. 国際社会の仕組みや国際機関の役割を説明できる
2. 世界が抱える紛争問題について説明できる
3. 世界が抱える貧困と格差について説明できる
4. 国際的な人の移動について説明できる
5. 世界の抱える問題と日本が抱える問題の相互関連について説明できる
6. 問題解決の取組みにおける日本の役割について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	<input type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input type="radio"/> (DP3)
DP	<input checked="" type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	国際関係論概要	授業ガイダンス 国際関係論とは、国際社会の成立、国際社会を形成するアクター	山根健至
2	月 日	国際機関とその役割	国際連合の組織と役割、その他の国際機関	山根健至
3	月 日	世界が抱える紛争問題	紛争多発地の状況・テロ（事件）の事例を通して	山根健至
4	月 日	世界が抱える貧困と格差	各国が抱える貧困と格差、日本の抱える貧困	山根健至
5	月 日	世界が抱える環境問題	エネルギー、温暖化、生態系、水資源	山根健至
6	月 日	国際的な人の移動	国際労働力移動、移民、難民、日本の外国人労働者	山根健至
7	月 日	平和構築と日本の役割	紛争と平和構築、PKO の仕組みと活動状況、日本の取組み	山根健至
8	月 日	国際協力と ODA	ODA の仕組みと日本の国際協力、授業のまとめ	山根健至

評 価	期末レポート（80%）、出席などの平常点（20%）
教科書	毎回レジュメを配布します。
参考図書等	1. 佐渡友哲他編著『国際関係論 第3版』弘文堂 2. 藤原帰一他編著『平和構築・入門』有斐閣 3. 福田保編『アジアの国際関係』春風社 4. 坂本治也編『市民社会論』法律文化社
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
文化人類学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	宮崎聖子

授 業 概 要
「国際化」や「グローバル化」が進む中、自文化と異文化の理解は私たちにとって必須なものとなっている。世界各国との交流が活発な現在、医療に関わる人材には、文化による考え方や価値、生活習慣の違いなど理解し対応する必要がある、特にその能力が必要とされている。文化人類学はそのための有力なツールである。本科目では、「文化とは何か」「人間とは何か」を、多様で具体的事象や理論を紹介しながら考えていく。それにより文化理解に必要な総合的な知識を学修し、今日の世界を洞察する力を身につける。

到 達 目 標
1. 文化の多様性を理解することで、他者理解の姿勢を持つことができる 2. 家族の捉え方の視点を説明できる 3. 病気や死の捉え方の普遍性と多様性を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	<input type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input type="radio"/> (DP3)
DP	<input checked="" type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	文化と文化人類学	ガイダンス、文化人類学とは	宮崎聖子
2	月 日	家族と親族	家族の成り立ち、家族とは	宮崎聖子
3	月 日	人生と通過儀礼	人生と通過儀礼	宮崎聖子
4	月 日	身体と病	諸文化における身体、病のあり方	宮崎聖子
5	月 日	死と葬送	諸文化における死や葬送のあり方	宮崎聖子
6	月 日	宗教と科学技術	宗教のあり方と科学技術との関わり	宮崎聖子
7	月 日	フィールドワーク	文化人類学のフィールドワーク、現場で考える	宮崎聖子
8	月 日	まとめ	人間と文化の洞察、まとめ	宮崎聖子

評 価	授業中に提出する小レポート 5 割、レポート 5 割で評価する。
教科書	
参考図書等	波平恵美子編：文化人類学 カレッジ版 3 版 医学書院 2011
留意事項	
オフィスアワー等	授業の後、またはメールによる。

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
アジアの文学	講義	1単位 (15時間)	1年前期	松原孝俊

授 業 概 要

アジアは非常に広大な地域であり、地域が辿ってきた歴史によって根付く文学の特徴にも違いがある。ここではアジア文学の中でも、東アジア（日本・中国・韓国）における古典文学と近代文学について学ぶ。作品を通して時代背景とともに人間の生きざまや考え方、思想がその文学にどのように影響しているか、それぞれの文学の特徴や関連について学修することを通して、時代背景や各地の文化が人間の生活や考え方、生き方に及ぼす影響について深く理解する。

到 達 目 標

1. 日本における古典文学と近代文学の特徴を説明できる
2. 中国における古典文学と近代文学の特徴を説明できる
3. 朝鮮（韓国）における古典文学と近代文学の特徴を説明できる
4. 作品の背景を理解し、東アジアの文学の関連について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと

事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める

対応	○ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	単 元	内 容	担当教員
1	東アジアの文学の歴史と関係	授業ガイダンス 東アジアの文学の歴史とその関係	松原孝俊
2	日本の古典文学	紫式部と松尾芭蕉	松原孝俊
3	日本の近代文学	夏目漱石の文学について	松原孝俊
4	中国の古典文学	中国古典文学の特質、李白、杜甫	松原孝俊
5	中国の近代文学	中国近代文学の父、魯迅の作品	松原孝俊
6	韓国の古典文学	パンソリ（朝鮮の伝統的民族芸能であり口承芸能）について	松原孝俊
7	韓国の近代文学	李光洙の作品を読む「土」	松原孝俊
8	まとめ	授業の振り返り まとめ	松原孝俊

評 価	課題レポート（100%）
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
福岡の歴史と文化	講義	1単位 (15時間)	1年前期	松原孝俊 宮井善郎 中野等

授業概要
福岡市の歴史、特に博多の成り立ちを学ぶ。福岡市は九州の玄関口として、またアジアに開かれた都市として、近年とみにグローバル化している。保健医療に携わる者としてこれから大学生活をおくる福岡の歴史、生活する人々の暮らしや地域で行われている習慣を知ることが、地域の環境や文化の理解、地域で生活する人の理解につながるとともに、地域に対する誇りを確認することにもなり大切な要素となる。自らも福岡の魅力を発信できるように多方面から学修する。

到達目標
1. 福岡の歴史を知り、古代から近代までの概要を説明できる。 2. 福岡の多文化共生社会の中で人権について説明できる。 3. 福岡の多文化共生社会における在日外国人の現状や課題について説明できる。

事前学修・事後学修
事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。

対応	○ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単元	内容	担当教員
1		福岡の歴史 古代	古代日本の玄関口筑紫館と鴻臚館	宮井善郎
2		中世	発掘調査からみた中世博多チャイナタウン	宮井善郎
3		近世の福岡	福岡藩を取り巻く諸問題	宮井善郎
4		近代	福岡の近代化遺産 330	宮井善郎
5		現代	博多港にたどり着いた外地からの引きあげ者 139 万人	松原孝俊
6		福岡における多文化共生社会 1	人権啓発・同和問題	宮井善郎
7		福岡における多文化共生社会 2	在日外国人・外国人労働者	宮井善郎
8		福岡における多文化共生社会 3	多文化共生に向けた街づくり	宮井善郎

評価	課題レポート (100%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
健康科学入門	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	西村泰治 野地有子 溝田勝彦 近藤敏

授 業 概 要
日本は世界に先駆けて高齢社会となり、国民が健康でよりよく生きるかということは大きな命題でもある。「健康」とは何か、人々のより良い健康を支援する職業に携わるものとして、看護、理学療法、作業療法、各々の視点から健康を深く理解し、人間の「健康」を支える「科学」とは何かを思考する。健康科学を支える学問は多岐にわたっており、人々の健康の実現を目指していく実践的な科学である。ここでは各学科の専門基礎分野・専門分野への導入として、その礎となる「健康科学」について学修する。

到 達 目 標
1. 自分が学ぶ領域における健康とはどのようなものか説明できる
2. 科学とは何か説明できる
3. 健康を科学するとは自分が学ぶ領域でどのようなことが考えられるか自分なりに説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		健康とは1	授業ガイダンス 健康とは何か 医学領域からみた健康	西村泰治
2		健康とは2	看護領域からみた健康	野地有子
3		健康とは3	理学領域からみた健康	溝田勝彦
4		健康とは4	作業領域からみた健康	近藤敏
5		科学とは何か	科学とは何か 仮説の立案とその検証	西村泰治
6		健康を科学する1	健康を科学する最新の研究から (看護)	野地有子
7		健康を科学する2	健康を科学する最新の研究から (理学)	溝田勝彦
8		健康を科学する3	健康を科学する最新の研究から (作業)	近藤敏

評 価	課題レポート (100%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
医療と情報リテラシー	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	藤村直美

授 業 概 要

激しく変化している社会の中で生きていくためには生涯学習が必須となり、各自がそれぞれの方法を身につけるためには情報リテラシー能力の獲得が必要である。本科目ではインターネットの概要について学び、その上で動くアプリケーションの仕組みや基礎技術を理解し、適切に使いこなせるように学ぶ。医療の現場は ICT (Information and Communication Technology) の発達によって大きく変化している。しかしその一方では様々な問題や課題がある。ICT を用いた新しい医療としては遠隔での診療が可能になったり、情報の共有ができたり、災害時に活用できたりなど現在の状況や、これから充実していく 5G (高速、大量の通信が可能) での医療の活用について学ぶ。さらに医療倫理的側面から、医療に関わる人々が知っておくべき課題について学修する。

到 達 目 標

1. インターネットで使える機能の仕組みを理解して、適切に使用できる
2. セキュリティについて理解し、安心・安全にインターネットとアプリを使用できる
3. インターネット上で入手できる様々なコンテンツの探索方法、活用方法を理解して活用できる
4. コンピュータの基礎知識を説明できる
5. 医療情報のリテラシーについて説明できる
6. 病院情報システムの構成について理解し、説明できる
7. ICT や情報技術、通信技術発達による医療への影響、IoT (Internet of Things) と生活の関連について説明できる
8. 個人情報の取り扱いについて説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	(DP1)	◎ (DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		インターネットの概要	授業ガイダンス インターネットの概要 (構成要素、接続形態、IP アドレス、ドメイン名)	藤村直美
2		電子メールについて	電子メール (配送の仕組み 利用上の注意)	藤村直美
3		情報セキュリティ	情報セキュリティ (ウイルス、ファイアウォール、通信方法)	藤村直美
4		コンピュータとデータベース	コンピュータ構成要素 (ハードウェア、OS、ソフトウェア)、デバイス、データベース	藤村直美
5		医療情報リテラシー	医療情報のリテラシー (医療者サイドと非医療者サイドの違い)	藤村直美
6		病院情報システム 1	医事会計システム、オーダーリングシステム、電子カルテシステム、各医療システムの構成 システム開発、導入、管理、運用 様々な医療システム	藤村直美
7		病院情報システム 2	医事会計システム、オーダーリングシステム、電子カルテシステム、各医療システムの構成 システム開発、導入、管理、運用 様々な医療システム	藤村直美
8		WWW とは	WWW (サーバー、クライアント、HTTP/HTTPS、検索の仕組み)	藤村直美
9		暮らしの場で支援を必要とする人と ICT IoT と生活・医療	ICT を活用した情報共有と支援 医療に関するモノをインターネットに接続することによる効果と影響	藤村直美
10		情報技術、通信技術を利用した医療	情報技術、通信技術を用いた健康づくり、遠隔医療、医療安全への取り組み (転倒など)、介護予防 5G の医療・保健・福祉への導入、6G 時代の到来について	藤村直美
11		OER について	OER (Open Education Resources) (OCW、MOOC、世界の学習教材)	藤村直美
12		個人情報保護	医療現場における個人情報の扱い、個人情報保護法と次世代医療基盤法の解説	藤村直美
13		これからの医療情報	近未来の医療情報を考える、グループ発表、授業のまとめ	藤村直美
14		クラウドについて	クラウド (仕組み、特徴、利用方法)	藤村直美
15		電子決済について	電子決済 (仕組み、種類と特徴、メリット/デメリット)	藤村直美

評 価	
教科書	
参考図書等	
留意事項	講義形式は オンライン会議（オンデマンド型） 録画ビデオを活用した予習・復習、及びそれを活用した反転学習による。
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
論理的思考法	講義	1単位 (15時間)	1年前期	倉田剛

授 業 概 要

今日、どのような職業においても「根拠（エビデンス）にもとづいた思考と行動」が求められている。医療の領域も例外ではない。そこでは「エビデンスにもとづく治療（医療）」という言葉をよく耳にするようになった。しかし、根拠にもとづいて結論を導き出すとはいかなることなのか。ある結論をエビデンスによってサポートするとはどのようなことなのか。こうした根本的な問いを考えるのが、この講義の目的である。この講義では、「論証」の構造およびその評価の仕方を、演繹と帰納の観点から体系的に検討することによって、これらの問いにアプローチする。論理的思考を修得することは、大学におけるアカデミックスキルを身につける際にも基本となるだろう。

到 達 目 標

1. 論証とは何か説明できる
2. 様々なタイプの論証に関する評価基準について説明できる
3. 身近な場面から自分自身で説得的な論証をつくることのできる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習： 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	(DP1)	◎ (DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	論証とは何か	授業ガイダンス なぜ論理的思考が大切なのか	倉田剛
2	月 日	論証の構造	前提と結論	倉田剛
3	月 日	論証のタイプ	演繹と帰納、主な論証のタイプを区分する	倉田剛
4	月 日	論証の評価	妥当性と帰納的強さとの区別	倉田剛
5	月 日	仮説形成型論証	仮説の形成とその確証の仕方	倉田剛
6	月 日	帰納的一般化	サンプル（部分）から母集団（全体）の様子を推測する	倉田剛
7	月 日	因果推論	確からしい原因を特定する論証	倉田剛
8	月 日	まとめ	授業のまとめ	倉田剛

評 価	平常点（授業への積極的な参加）と学期末試験の点数によって評価する。
教科書	倉田 剛『論証の教室〔入門編〕 インフォーマル・ロジックへの誘い』（新曜社、2022年3月）
参考図書等	適宜推薦する。
留意事項	とくになし。
オフィスアワー等	事前にメール等で連絡することが望ましい。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
統計学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	山下貴範

授 業 概 要

本科目は基礎的な話を中心となる。統計学は、1つ1つの基礎を積み上げながら自分の中でイメージを描き、理解をしていくことが大事である。特に、扱うデータの種類や性質などが分かっていると、そこから先の統計学の理解が難しくなる。そのため、最初に医療データの種類や医療データ解析事例を説明する。そして前半は基礎となる特徴記述統計の理解を中心に解説する。後半の推測統計では標本の扱い、推定、検定の手法についての理解を中心に解説する。統計学は各分野での学修の基礎となる、今後の研究的思考に活かせるように学修する。

到 達 目 標

1. 医療データの種類、性質を理解できる
2. データを収集するための計画・立案ができる
3. データの種類を把握し、基本統計量を求めることができる
4. 統計検定の流れを把握し、正しく検定の判断ができる
5. 統計解析デザインの重要性を理解できる
6. 目的に沿った検定手法を用いることができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	概論 医療データの現状	医療データの種類、特徴	山下貴範
2	月 日	医療データ解析の目的	解析の目的（医療データ解析事例を元に）	山下貴範
3	月 日	医療データ解析の目的	統計分析の目的、基本的な用語、研究種類、解析方法の概要	山下貴範
4	月 日	記述統計 1 1 変数データの記述（代表値、散布度）	代表値（最頻値・中央値・平均値）、散布度（範囲・分位点、パーセンタイル、分散、標準偏差）	山下貴範
5	月 日	記述統計 2 2 変数データの記述	クロス表、散布図	山下貴範
6	月 日	記述統計 3 2 変数データの記述	2 変数データの関連指標（カイ二乗値、クラメール関連指数、相関係数）	山下貴範
7	月 日	記述統計のまとめ	記述統計について、演習問題	山下貴範
8	月 日	推測統計 1 母集団・確率分布	母集団と標本、確率分布（離散型、連続型）	山下貴範
9	月 日	推測統計 2 推定と検定	推定（点推定、区間推定）、検定（帰無仮説、対立仮説）	山下貴範
10	月 日	推測統計 3 検定手法各論	独立性の検定、ノンパラメトリック検定	山下貴範
11	月 日	推測統計 4 解析手法	単変数解析～多変数解析	山下貴範
12	月 日	推測統計のまとめ	推測統計について、演習問題	山下貴範
13	月 日	統計デザイン	統計解析におけるデザインの重要性	山下貴範
14	月 日	統計と機械学習	機械学習手法の説明と統計手法の違い	山下貴範
15	月 日	統計学と医療データ	何を目的にどのような医療データで統計解析するか議論、授業のまとめ。	山下貴範

評 価	
教科書	講師資料、基礎医学統計学改訂第7版
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
生物学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	照屋輝一郎

授 業 概 要

医療職に必要な不可欠な生物学の基本事項を学修し、生命とは何かを考える。初めに生命の基本となる細胞の構造と機能を理解し、生体を構成する分子や恒常性維持のメカニズムについて学ぶ。また発生・分化、遺伝と生物進化、生命誕生と死に関する事項の学びを通じて、「生きるとは何か」という生命の本質を理解する。ここでは医療の基礎となる生物学を学ぶことで、私たちの生命がどのような仕組みで維持されているのかを理解し、それを専門分野に応用できる基礎的能力を養う。

到 達 目 標

1. 細胞を構成する物質の特徴を説明できる
2. 遺伝の仕組みについて説明できる
3. エネルギー代謝、細胞の増殖、細胞の死について説明できる
4. 脳神経、免疫の仕組みについて説明できる
5. 生命のしくみについて説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	生物とは	授業ガイダンス 生命の誕生、生物とは、生物学の体系	照屋輝一郎
2	月 日	細胞	細胞膜、核、小胞体、ゴルジ体、ミトコンドリア、リボソーム	照屋輝一郎
3	月 日	生物を構成する物質	水、糖質、脂質、タンパク質、アミノ酸、核酸、ヌクレオチド	照屋輝一郎
4	月 日	栄養と代謝	栄養素、異化と同化、ATP、酵素、エネルギー代謝、代表的な代謝経路	照屋輝一郎
5	月 日	遺伝と DNA	遺伝の法則、ゲノムと染色体、DNA、突然変異	照屋輝一郎
6	月 日	遺伝情報の発現	セントラルドグマ、RNA、転写、翻訳	照屋輝一郎
7	月 日	細胞増殖・細胞死	細胞周期、体細胞分裂、減数分裂、細胞の死	照屋輝一郎
8	月 日	生殖・発生・分化	生物の増殖、動物の発生、分化・再生	照屋輝一郎
9	月 日	動物の組織	組織の形成と細胞、筋、血液	照屋輝一郎
10	月 日	動物の器官	消化系、循環系、呼吸器、排出系、感覚系	照屋輝一郎
11	月 日	ホルモンと生体調節	ホルモン、生体調節のしくみ	照屋輝一郎
12	月 日	神経系	中枢神経系、末梢神経系、ニューロン、神経伝達物質	照屋輝一郎
13	月 日	免疫	免疫とは、自然免疫、獲得免疫	照屋輝一郎
14	月 日	生命システムの破綻	がん、老化	照屋輝一郎
15	月 日	バイオテクノロジーと医療	遺伝子組換え、細胞工学、再生医療、生命倫理	照屋輝一郎

評 価	成績は主に学期末テストの結果で評価するが、課題などの提出状況も含めて評価する。
教科書	田村隆明 著 医療・看護系のための 生物学 (改訂版) 裳華房 ISBN 978-4-7853-5233-2

参考図書等	1. 八杉貞雄 著 ヒトを理解するための 生物学 (改訂版) 裳華房 ISBN 978-4-7853-5242-4 2. 中村桂子/松原謙一/榎佳之/水島昇 監訳 Essential 細胞生物学 原書第 5 版 南江堂 ISBN 978-4-524-22682-5
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
物理学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	黒木昌一

授 業 概 要

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本科目の目的は、力学の基本的な原理について正しい理解を得ること、看護師、理学療法士、作業療法士に必要な物理学に関連する知識を得ること、科学的または論理的な考え方を養うことである。人体の運動と物理の法則の関係を理解し、科学的な思考で人間の動きを捉えられるように学ぶことで、無理のない体の動きや力の使い方についても日常的に重力や摩擦など考えながら行動し、各分野に活かせるように学修する。

到 達 目 標

1. 人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける
2. 臨床場面における科学的思考の基礎を身につける

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：当該テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	物理学基礎で学習すること 物理量とその表し方(1)	物理学とは、看護学・理学療法学・作業療法学と物理学 物理量、国際単位系（基本単位と組立単位）、ベクトル量とスカラー量	黒木昌一
2	月 日	物理量とその表し方(2)	大きい数、小さい数の表し方、指数の計算、有効数字とその計算	黒木昌一
3	月 日	物理学で使うグラフと関数(1)	数式とグラフ、三角関数	黒木昌一
4	月 日	物理学で使うグラフと関数(2)	変化率と微分、ベクトルの計算	黒木昌一
5	月 日	いろいろな運動(1)	位置と変位、速度、加速度、等速直線運動	黒木昌一
6	月 日	いろいろな運動(2)	等加速度直線運動、自由落下、鉛直投げ上げ、水平投射	黒木昌一
7	月 日	さまざまな力(1)	力とは、力の単位、重力、張力	黒木昌一
8	月 日	さまざまな力(2)	垂直抗力、摩擦力、弾性力、圧力	黒木昌一
9	月 日	力のつり合いと運動の法則(1)	力の合成と力のつり合い、慣性の法則、遠心力	黒木昌一
10	月 日	力のつり合いと運動の法則(2)	運動方程式、作用反作用の法則	黒木昌一
11	月 日	物体の重心と回転運動(1)	剛体の回転運動、力のモーメントのつり合い、重心と重心の求め方	黒木昌一
12	月 日	物体の重心と回転運動(2)	剛体の運動と剛体にはたらく力、力のモーメントと3つのでこ	黒木昌一
13	月 日	運動量、仕事とエネルギー(1)	運動量と力積、仕事と仕事率、運動エネルギー	黒木昌一
14	月 日	運動量、仕事とエネルギー(2)	位置エネルギー、エネルギー保存の法則	黒木昌一
15	月 日	波、音と光	波の特徴、縦波と横波、照度と光度	黒木昌一

評 価	レポート・授業中の小テスト 30% と期末試験（筆記試験） 70%で評価する。
教科書	特に指定しない。（プリント配布等で対応）
参考図書等	1) 廣岡秀明・崔東学・古川裕之・吉村玲子・山本洋 共著「医療系の基礎としての物理」 学術図書出版社 2) 横田俊昭著 「看護と医療技術者のためのぶつり学」 第2版 共立出版 3) 藤城敏幸/佐藤幸一著 「医療系のための物理」 第2版 東京教学社

留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
英語 I (医療英語)	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	Greggory John Wroblewski

授 業 概 要

ここでのポイントは臨床の様々な現場で患者との英語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を修得する。実際に使えない英語は意味がないので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。講義を通じて必要な単語を覚え、英文の構造の理解を学ぶことで、英語が聞き取れるようになるように学ぶ。人々とのコミュニケーションの手段として、医療の場における会話ができるように学修する。

到 達 目 標

1. 英語で症状に関する会話ができる
2. 英語で入院中の生活に関する会話ができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	<input checked="" type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input type="radio"/> (DP3)
DP	<input type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	身体の基本部位	授業ガイダンス 身体の基本部位の名称	Greggory John Wroblewski
2	月 日	don't worry	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
3	月 日	How may I help you?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
4	月 日	How are you feeling?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
5	月 日	Could you fill in this medical questionnaire?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
6	月 日	Take the elevator please	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
7	月 日	What are your symptoms?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
8	月 日	Where does it hurt?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
9	月 日	How long have you had these symptoms?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
10	月 日	How long have you had these symptoms?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
11	月 日	I am going to take a blood sample	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
12	月 日	Your surgery will be tomorrow.	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
13	月 日	There are three kinds of medicine.	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
14	月 日	Are you worried about anything?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
15	月 日	Are you worried about anything?まとめ	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski

評 価	
教科書	ホスピタル・イングリッシュ (改訂版) (南江堂)
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
英語Ⅱ (医療文献読解)	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	Greggory John Wroblewski

授 業 概 要

看護学科や理学療法学科、作業療法学科に必要な英語論文や英語記事を読み解き理解することで、大学在学中および将来にわたって必要とされる英語読解能力をスキルアップできるように学ぶ。医療の分野では最新の知見に触れることを通して、日々の実践活動に活かしていくことが今後ますます必要とされる。そのためにも英文の読解は必須である。これから学び深めていく各専門分野にも英語に親しみをもち活用できるように、また4年次の卒業研究や将来にわたって最新の英文の読解ができる基礎作りを行う。

到 達 目 標

1. 各分野の記事内容や英語論文を正しく理解できる
2. 理解した内容を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	○ (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	授業ガイダンス	授業ガイダンス 講師紹介 短い記事を読む	Greggory John Wroblewski
2	月 日	文献読解①	スチューデントタイムスの医療に関する記事を読む	Greggory John Wroblewski
3	月 日	文献読解①	スチューデントタイムスの医療に関する記事を読む	Greggory John Wroblewski
4	月 日	文献読解①	学生プレゼンテーション	Greggory John Wroblewski
5	月 日	文献読解②	タイムズに掲載されている医療記事を読む	Greggory John Wroblewski
6	月 日	文献読解②	タイムズに掲載されている医療記事を読む	Greggory John Wroblewski
7	月 日	文献読解②	タイムズに掲載されている医療記事を読む	Greggory John Wroblewski
8	月 日	文献読解②	学生プレゼンテーション	Greggory John Wroblewski
9	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
10	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
11	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
12	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
13	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
14	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
15	月 日	授業まとめ	学生プレゼンテーション	Greggory John Wroblewski

評 価	
教科書	ホスピタル・イングリッシュ (改訂版) (南江堂)
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
スポーツ理論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	小西裕之

授 業 概 要

学生の健康管理の一環ともなるようスポーツについて学修する。人間にとって体を動かすことがどのような意義があるのか、スポーツがもたらす心や体への影響を考え、体力づくりや健康づくりや、スポーツ理論について学ぶ。さらに障害者のスポーツについても学修する。障害には身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などがある。初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツ活動の導入を支援できるように学修する。

到 達 目 標

1. スポーツが身体・精神に及ぼす影響について説明できる
2. 健康と体力づくりの関係について説明できる
3. スポーツに取り組む際の安全への配慮について説明できる
4. 障がい者スポーツの概要を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		スポーツの意義と役割	授業ガイダンス 健康の概念 運動・スポーツが健康に及ぼす影響	小西裕之
2		ライフステージによる 運動・スポーツ	ライフステージ別にみた運動・スポーツ及びそれらの健康に及ぼす影響	小西裕之
3		スポーツと メンタルヘルス	運動・スポーツがメンタルヘルスに及ぼす影響	小西裕之
4		安全管理	安全管理の考え方、安全上の約束と指導、レクリエーションの工夫	小西裕之
5		運動処方	運動処方の原則、運動処方についての留意点	小西裕之
6		障害別指導の特徴	身体別障害、知的障害、精神障害、発達障害	小西裕之
7		障がい者スポーツ	障がい者スポーツ振興の経過	小西裕之
8		まとめ	ノーマライゼーションの考え方、授業の振り返り	小西裕之

評 価	学内規定に準ずる
教科書	なし
参考図書等	適宜配布する。
留意事項	携帯電話等モバイル機器の無断使用を禁止する
オフィスアワー等	授業終了後、もしくはメールにて問い合わせること

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
スポーツ実践	演習	1単位 (30時間)	1年後期	小西裕之

授 業 概 要

学生の健康管理の一環ともなるよう、様々なスポーツを経験することで体を動かし健康づくりについて考えるとともに、お互いに協力してコミュニケーション力を向上させ、生涯スポーツに取り組めるように学ぶ。スポーツ実践の際はその競技のルールに従うことや、チームで行う場合は協力し、ともに仲間の力を信じてお互いの能力を最大限に発揮できるように臨むことが必要となる。各スポーツの実践を通して協調性や、目標を共有し協力しあう楽しさも学修する。

到 達 目 標

1. スポーツの健康に対する意義について説明できる
2. 運動を通してチームと協力して目的を達成できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについてゲームのルール等調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマについて振り返りや自主的に練習する

対応	◎ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	○ (DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		レクリエーション運動の歴史	授業ガイダンス レクリエーション (自己紹介を兼ねる)	小西裕之
2		スポーツ実技 1	バドミントン①	小西裕之
3		スポーツ実技 2	バドミントン②	小西裕之
4		スポーツ実技 3	バドミントン③	小西裕之
5		スポーツ実技 4	バスケットボール①	小西裕之
6		スポーツ実技 5	バスケットボール②	小西裕之
7		スポーツ実技 6	バスケットボール③	小西裕之
8		スポーツ実技 7	卓球①	小西裕之
9		スポーツ実技 8	卓球②	小西裕之
10		スポーツ実技 9	卓球③	小西裕之
11		スポーツ実技 10	バレーボール①	小西裕之
12		スポーツ実技 11	バレーボール②	小西裕之
13		スポーツ実技 12	フットサル①	小西裕之
14		スポーツ実技 13	フットサル②	小西裕之
15		スポーツと健康 まとめ	スポーツの健康に対する意義、まとめ	小西裕之

評 価	出席 2/3 以上が基本
教科書	
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
人体構造学	講義 演習	2単位 (60時間)	1年前期	東華岳

授 業 概 要

生命の基本単位である細胞の構造と機能を理解し、人体を構成する組織、器官の構造を系統的に学び、人体の全体像を把握する。医療は生命の維持と健康の保持・増進を目指して行われている。医療行為は人体へのさまざまな介入が実施されるので、人体の正確な理解が必要となる。看護実践特にフィジカルアセスメントの基盤となる人体の基本的な構造の知識は、看護の対象の健康状態を判断するときに不可欠なものであるため、その基礎的知識を学ぶ。さらに実際の人体(献体)や臓器の観察を通して自己の死生観を育む。個人の健康課題に関わる看護を目指す学生にとって、人体の構造の知識は対象の健康状態を判断するときに不可欠となる。人体に対する理解が深まるように基礎的知識を学修する。

到 達 目 標

1. 身体の一部について、解剖用語を用いて説明できる
2. 人体各器官の位置、構造上の特徴を説明できる
3. 検体の意義や死生観について自分の考えを述べることができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	人体の構造と機能の基礎知識	授業ガイダンス 形からみた人体 素材からみた人体	東華岳
2	月 日	人体の構造と機能の基礎知識	細胞膜の構造、細胞の増殖と染色体、細胞がつくる組織	東華岳
3	月 日	栄養の消化と吸収 1	口・咽頭・食道の構造、腹部消化管の構造	東華岳
4	月 日	栄養の消化と吸収 2	膵臓・肝臓・胆嚢・脾臓の構造	東華岳
5	月 日	栄養の消化と吸収 3	腹膜と腸間膜、腹膜と内臓の位置関係、胃の周辺の間膜	東華岳
6	月 日	呼吸器の構造	呼吸器の構造	東華岳
7	月 日	血液	血液の組成、血球の分化、ヘモグロビンの構造他	東華岳
8	月 日	循環器系 1	循環器系の構成、心臓の構造、心臓壁、心臓の血管と神経	東華岳
9	月 日	循環器系 2	末梢循環系の構造、血管の構造、肺循環の血管、体循環の動・静脈	東華岳
10	月 日	腎・泌尿器系 1	腎臓の構造、糸球体の構造、尿細管・傍糸球体装置・排尿路の構造	東華岳
11	月 日	生殖器系 (男性)	発生、組織、構造	東華岳
12	月 日	生殖器系 (女性)	発生、組織、構造	東華岳
13	月 日	内臓機能の調節 1	自律神経の構造、ホルモンの化学構造、下垂体の構造、甲状腺と副甲状腺の構造	東華岳
14	月 日	内臓機能の調節 2	膵臓の構造、副腎の構造、性腺の構造、その他の内分泌腺	東華岳
15	月 日	身体の支持 1	人体の骨格の発生、組織	東華岳
16	月 日	身体の支持 2	筋系の発生、組織	東華岳
17	月 日	身体の支持 3	体幹の骨、頭部の骨	東華岳

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
18	月 日	身体の支持 4	上肢・下肢の骨格、神経頭蓋、内臓頭蓋	東華岳
19	月 日	身体の支持 5	上肢・下肢の筋肉、頭部・頸部の筋肉	東華岳
20	月 日	情報の受容と処理 1	神経系の構造、脊髄の構造	東華岳
21	月 日	情報の受容と処理 2	脳の構造	東華岳
22	月 日	情報の受容と処理 3	脊髄神経の構造、脳神経の構造	東華岳
23	月 日	情報の受容と処理 4	眼球の構造、眼球付属器	東華岳
24	月 日	情報の受容と処理 5	耳の構造、味覚器、嗅覚器	東華岳
25	月 日	身体機能の防御 6	皮膚の構造	東華岳
26	月 日	解剖見学について	} 解剖見学	東華岳
27	月 日	解剖見学		東華岳
28	月 日	解剖見学		東華岳
29	月 日	解剖見学		東華岳
30	月 日	まとめ	人体構造学まとめ	東華岳

評 価	客観試験 (100%)
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院
参考図書等	
留意事項	授業については講義と演習を組み合わせる効果的に実施する
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
人体機能学	演習	2単位 (60時間)	1年後期	田中裕二

授 業 概 要
人体構造学を基礎として、生体の生命活動や恒常性（ホメオスタシス）の維持に関与する事象を解剖学・生理学的な視点から学ぶ。生物は体内に物質を取り込み、外部からの刺激に反応して生活を営んでいる。また成長し種の保存をはかり、老化し死を迎える。このように生体内で生じる種々の反応や、その反応系に異常を来して生じた事象について形態機能学的に説明する。人体の構造と機能に関連させて学ぶことにより、看護の対象の健康の保持・増進を科学的根拠に基づいて支援できるように学修する。

到 達 目 標
1. 人体の構造および機能について関心をもち、積極的に学修する態度を身につける 2. 細胞、血液系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系、運動系、感覚系、体温調節系、内分泌系の機能を形態と関連づけて説明できる 3. 各機能が障害されたときに出現する症状や回復機序について説明できる 4. 高次脳機能について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	序章 生理学総論	授業ガイダンス 人体の構成、細胞機能の基礎	田中裕二
2	月 日	序章 生理学総論	細胞の物質的基礎、細胞膜の興奮	田中裕二
3	月 日	第1章 血液(1)	血液の成分、血液の作用、血液量、血液の物理化学、赤血球	田中裕二
4	月 日	第1章 血液(2)	白血球、血小板による止血、血液凝固、血液型	田中裕二
5	月 日	第2章 循環(1)	心臓・血管系の概要、心臓の機能的構造	田中裕二
6	月 日	第2章 循環(2)	興奮伝導系、心電図、心臓の機械的活動	田中裕二
7	月 日	第2章 循環(3)	血管系、血圧測定、リンパ管系、循環調節、特殊部位の循環、循環系の障害（心不全、ショック）	田中裕二
8	月 日	第3章 呼吸(1)	呼吸器系の概要、呼吸器系の機能的構造	田中裕二
9	月 日	第3章 呼吸(2)	呼吸運動（横隔膜および肋骨の運動、呼吸気量）、肺の張力と肺胞表面活性物質	田中裕二
10	月 日	第3章 呼吸(3)	ガス交換、呼吸運動の調節機構、異常呼吸パターン	田中裕二
11	月 日	第4章 消化・吸収(1)	消化・吸収系の概要、消化管の構造と神経支配、消化管の運動、排便	田中裕二
12	月 日	第4章 消化・吸収(2)	消化液の分泌とその作用、肝臓の構造と機能	田中裕二
13	月 日	第4章 消化・吸収(3)	小腸での消化・吸収、大腸での吸収	田中裕二
14	月 日	第5章 腎機能(1)	泌尿器系の概要、尿細管の機能（濾過、再吸収と分泌）、水の代謝と浸透圧調節	田中裕二
15	月 日	第5章 腎機能(2)	ナトリウム代謝と体液量調節、体液の酸塩基平衡の調節、排尿	田中裕二
16	月 日	第6章 神経(1)	神経系の要素、神経系の発生・発達・老化、興奮の発生（活動電位）、興奮の伝導と伝達	田中裕二
17	月	第6章 神経(2)	末梢神経系（脳神経、脊髄神経）、自律神経系、中枢神経系（脊髄、脳幹）	田中裕二

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
	日			
18	月 日	第6章 神経(3)	中枢神経系（間脳、小脳、大脳基底核、大脳辺縁系、終脳）	田中裕二
19	月 日	第7章 筋肉・運動(1)	運動神経系の概要、神経筋接合部の興奮伝達、骨格筋の収縮	田中裕二
20	月 日	第7章 筋肉・運動(2)	筋収縮の調節、脊髄反射	田中裕二
21	月 日	第7章 筋肉・運動(3)	姿勢と運動の調節、運動の発現（運動準備電位と運動電位、随意運動）、二足歩行の生後発達	田中裕二
22	月 日	第8章 感覚(1)	感覚の一般的性質（感覚総論）、体性感覚（皮膚感覚、深部感覚）、内臓感覚	田中裕二
23	月 日	第8章 感覚(2)	特殊感覚（視覚、聴覚）	田中裕二
24	月 日	第8章 感覚(3)	特殊感覚（平衡感覚、味覚、嗅覚）	田中裕二
25	月 日	第9章 体温調節	体温、体熱の産生と放散、体温調節、発熱と解熱、高体温と低体温	田中裕二
26	月 日	第10章 内分泌(1)	ホルモン総論、ホルモンの種類と作用機序、ホルモン各論 [視床下部ホルモン、下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺（上皮小体）ホルモン]	田中裕二
27	月 日	第10章 内分泌(2)	ホルモン各論 [膵臓ホルモン、副腎皮質ホルモン（糖質コルチコイド、鉱質コルチコイド）]	田中裕二
28	月 日	第10章 内分泌(3)	ホルモン各論 [副腎髄質ホルモン、性ホルモン（生殖機能、性周期と妊娠）、消化管ホルモン、サイトカイン]	田中裕二
29	月 日	第11章 高次脳機能(1)	連合野（連合野の区分、前頭連合野、頭頂連合野、側頭連合野、視覚機能、言語機能）	田中裕二
30	月 日	第11章 高次脳機能(2)	学修と記憶、睡眠と覚醒	田中裕二

評 価	筆記試験（80%）、課題レポート（10%）、小テスト(10%)
教科書	人体の構造と機能「第5版」内田さえ、佐伯由香、原田玲子（編著）、医歯薬出版, 2019.
参考図書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学テキスト 第8版, 大地陸男（編集）、文光堂, 2017. 2. 目で見るからだのメカニズム 第2版, 堺 章（著）、医学書院, 2016. 3. ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能(1)；解剖生理学, 林正健二（編集）、第4版, メディカ出版, 2016. 4. ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち(1)；病態生理学, 山内豊明（編集）、第5版, メディカ出版, 2018. 5. トートラ人体の構造と機能 第5版（原書15版）、桑木共之他（編訳）、丸善出版, 2019. 6. トートラ人体解剖生理学 原著9版, 佐伯由香ほか（編訳）、丸善出版, 2014. 7. 新・看護生理学テキスト—看護技術の根拠と臨床への応用, 深井喜代子他（編）、南江堂, 2008. 8. 標準生理学 第9版, 本間研一（監修）、大森治紀, 大橋俊男（総編集）、医学書院, 2019. 9. カラー図解 よくわかる生理学の基礎（第2版）、佐久間康夫（監訳）、メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2017. 10. カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理（第2版）、松尾理（監訳）、メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2011.
留意事項	授業については講義と演習を組み合わせる効果的に実施する
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
栄養代謝学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	岩本 昌子

授 業 概 要
人間は食物として取り込んだ栄養素を体内で消化吸収し、それらを化学変化させ体が必要とするものを合成し、エネルギーや生体構成成分として利用したのち、不要となったものを体外に排泄してバランスのとれた代謝を維持している。このバランスが崩れると健康状態に障害が発生し、日常生活にも支障をきたす。これら人間に不可欠な栄養の吸収と代謝のメカニズムについて学ぶことにより、看護を実践する際に対象の健康保持に貢献できるように基礎的知識を学修する。

到 達 目 標
1. 栄養素と栄養価について説明できる 2. 食物の消化と吸収について説明できる 3. 日本人の食事摂取基準を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	栄養と生化学	ガイダンス 栄養と生化学、消化と吸収、同化・異化作用	岩本昌子
2	月 日	人体と栄養生化学	細胞の構造と栄養生化学、人体・組織と栄養生化学	岩本昌子
3	月 日	食物と栄養	栄養素と栄養価、主要食品の栄養学的特徴	岩本昌子
4	月 日	糖質の栄養生化学 タンパク質の栄養生化学	糖質と生体、糖質の消化・吸収 アルコールの代謝 タンパク質と生体、アミノ酸、血漿タンパク質	岩本昌子
5	月 日	エネルギーの栄養生化学 酵素の栄養生化学	吸収とエネルギーの産生、代謝とエネルギーバランス 酵素の性質と酵素反応	岩本昌子
6	月 日	ビタミンの栄養生化学 無機質の栄養生化学	各種ビタミンの機能、各種無機質の機能	岩本昌子
7	月 日	食事摂取基準	日本人の食事摂取基準、成長・生活と栄養	岩本昌子
8	月 日	栄養療法 まとめ	健康食の概念、経管栄養の注入液	岩本昌子

評 価	客観試験 (100%)
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能② 医学書院
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
病理学	講義	2 単位 (30 時間)	1 年後期	中川和憲

授 業 概 要

人体構造学、人体機能学、微生物学などの学びを基に、病気の原因、病気の発症・進展の過程、炎症、腫瘍などの知識を学び、それらの病変が組織や臓器に現れた場合の健康障害の成り立ちについて学修する。病気は器官・組織・細胞に特徴的な変化をもたらすため、それを調べることで病気の原因と成り立ちを知ることができる。本科目では病気になった人の身体に生じている変化について学ぶが、病理学を学ぶことは、病気を知ることにつながり、病気である人間を看護する時の基礎的知識を学修する。

到 達 目 標

1. 病気の原因、誘因、転帰を説明できる
2. 循環障害による主な疾患の病理を説明できる
3. 炎症の定義と主な免疫、自己免疫疾患の病理を説明できる
4. 主な感染症の病原体の病理を説明できる
5. 先天異常と遺伝子の病理を説明できる
6. 代謝障害や加齢に伴う諸臓器の変化、死の定義について説明できる
7. 腫瘍の定義と分類を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：教科書と関連する該当箇所を予習し理解を深めておくと同時に、難解な箇所を明確にして授業に臨む
 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深め関連分野の過去問を解くなどして、自己の知識の再確認に努める

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	病理学で学ぶこと	病理学で学ぶこと、病気の内因と外因	中川和憲
2	月 日	細胞・組織の障害と修復	細胞の損傷と適応、組織の修復と創傷治癒	中川和憲
3	月 日	循環障害 1	浮腫 充血・うっ血、出血、血栓と塞栓	中川和憲
4	月 日	循環障害 2	側副循環、ショック、高血圧、DIC	中川和憲
5	月 日	炎症	炎症要因、主徴、炎症のメディエーター、炎症の各型	中川和憲
6	月 日	免疫 1	免疫とは、免疫に関する細胞、液性免疫、細胞性免疫	中川和憲
7	月 日	免疫 2	アレルギー、免疫不全、移植と拒絶反応、再生医療	中川和憲
8	月 日	感染症	病原体と毒素、感染経路、主な病原体と感染症	中川和憲
9	月 日	代謝障害	脂質、糖質、タンパク代謝異常、痛風、黄疸	中川和憲
10	月 日	老化と死	加齢に伴う諸臓器の変化、個体の死、死の判定、脳死、植物状態	中川和憲
11	月 日	先天異常	先天異常の分類	中川和憲
12	月 日	遺伝子の異常と疾患	遺伝子の変異と多型、遺伝子異常・染色体異常と疾患	中川和憲
13	月 日	腫瘍 1	腫瘍の定義：腫瘍の名称・形態的特徴・分類・種類、腫瘍の増殖	中川和憲
14	月 日	腫瘍 2	腫瘍の発生病理：悪性度と病期、腫瘍の原因と発生機序、転帰	中川和憲
15	月 日	代表的疾患、まとめ	代表的な臓器疾患の病態概要とまとめ	中川和憲

評 価	客観試験（100%）最終試験で 60%以上の得点を単位取得の必須要件とする。 評価が「D（不可）」であった場合は、1度に限り再試験を実施する。
教科書	1. 医学書院 病理学 疾病のなりたちと回復の促進① 2. 配布資料
参考図書等	1. 医学書院 病態生理学 人体の構造と機能① 2. メディカ出版 ナーシンググラフィカ 病態生理学 疾病の成り立ち①
留意事項	学習の理解度は、次回授業にて指名して確認する場合もあるので、スライドや資料で<ポイント>とした項目、キーワードについては、自己の言葉で論述できるようまとめておくこと。
オフィスアワー等	オフィスアワー：講義日昼休み。これ以外の時間帯を希望する場合は、メールにて事前連絡の上訪ねること。 連絡先メール：配布資料に記載

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
微生物学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	小川みどり

授 業 概 要

感染症は医学上もっとも重要な疾患の一つである。最近では新型コロナウイルスによる感染が世界を震撼させ、生活スタイルまでもが変化を余儀なくされた。さらに新たな病原体による感染症や院内感染などが社会的に危惧されている。病原体の種類と、これらがどのようにヒトと関わり感染症を引き起こすのかについて学ぶ。さらに感染症の予防および制御の重要性と方法を理解する。これらの知識を活かして、看護の現場で感染症に対して適切に対応できるようにする。微生物学の知識が看護の対象者のより良い健康に寄与できるように学修する。

到 達 目 標

1. 微生物の分類と特徴を説明できる
2. 病原体に対する宿主の非特異的および特異的生体防御機構を説明できる
3. 消毒・滅菌の意味を理解し、具体的な方法を説明できる
4. 主な病原体の性状、病原性、治療、予防について説明できる
5. 感染症の予防対策について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	微生物学の基礎	ガイダンス 微生物とはどのような生物か（細菌・真菌・原虫・ウイルス・プリオン） 実習：環境中の微生物①	小川みどり
2	月 日	感染とその防御 1	感染とは（感染源と感染経路）、生体防御機構のしくみ 実習：環境中の微生物②	小川みどり
3	月 日	感染とその防御 2	消毒と滅菌、検査・診断方法、化学療法、現状と対策 実習：手指の常在微生物と消毒効果①	小川みどり
4	月 日	病原細菌と細菌感染症 1	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性桿菌、カンピロバクター属、ヘリコバクター属 実習：手指の常在微生物と消毒効果②	小川みどり
5	月 日	病原細菌と細菌感染症 2	グラム陽性桿菌、抗酸菌と放線菌、嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア目、クラミジア科	小川みどり
6	月 日	病原ウイルスとウイルス感染症 1	DNA ウイルス、RNA ウイルス 1（オルトミクソウイルス）	小川みどり
7	月 日	病原ウイルスとウイルス感染症 2	RNA ウイルス 2、肝炎ウイルス、プリオン	小川みどり
8	月 日	病原真菌と真菌感染症 病原原虫と原虫感染症 まとめ	真菌、原虫、まとめ	小川みどり

評 価	筆記試験を行い、授業内容の理解度と目標到達度を確認する。100 点満点で評価し、60 点以上を合格とする。
教科書	南嶋 洋一、吉田 眞一、永淵 正法、齋藤 光正、大野 真治：「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 4 微生物学」第 13 版（医学書院）
参考図書等	1. 齋藤 光正：「イラストでわかる微生物学超入門 病原微生物の感染のしくみ」 南山堂 2. 吉田 眞一、柳 雄介、吉開 泰信：「戸田新細菌学」改訂 34 版 南山堂
留意事項	講義スライドのプリントとは別に、学習のポイントをまとめたもの（カッコ抜き）を配布し、授業中に書き込んでもらう。最重要事項なので、必ず内容を理解しておくようにする。
オフィスアワー等	講義開始前・終了後

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
薬理学	講義	2 単位 (30 時間)	1 年後期	豊平由美子

授 業 概 要

多数の薬が使用されている臨床の現場では、薬の特徴や作用を理解することは非常に重要である。①薬物の体内動態と作用部位、②薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、③薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、④薬物の副作用とその対策（副作用の出現を察知し、看護師としてどう対応するか）、以上について薬理学の基礎知識と薬物治療の基本について学修して看護に活かせるようにする。薬物は人間にとっては毒にも薬にもなり得る。薬物療法を受ける人の健康の質を支えられるように学ぶ。

到 達 目 標

1. 人体(各器官)のしくみとそれに関連する薬物の種類について説明できる
2. 薬の作用機序・薬理作用・有害作用についての知識を活用することができる
3. 薬剤を扱ううえで、薬の作用・副作用等の看護業務に必要な知識について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：講義内容に関連する項目を予習して授業に臨む
 事後学習：講義資料を参照して各章末ゼミナール（復習と課題）を実施して復習する

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	薬理学総論 1	薬理学を学ぶにあたって、薬が作用するしくみ	豊平由美子
2	月 日	薬理学総論 2	薬の体内挙動、薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子	豊平由美子
3	月 日	薬理学総論 3	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律、看護業務に必要な薬の知識まとめ	豊平由美子
4	月 日	抗感染症薬	感染症治療に対する基礎事項、抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス・抗寄生虫薬	豊平由美子
5	月 日	抗がん薬・免疫治療薬	がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論、免疫系の基礎知識、免疫抑制薬・免疫増強薬・予防接種薬	豊平由美子
6	月 日	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ・痛風・抗尿酸血症治療薬	豊平由美子
7	月 日	末梢での神経活動に作用する薬物	神経系による情報伝達、自律神経系作用薬・筋弛緩薬・局所麻酔薬	豊平由美子
8	月 日	循環器系に作用する薬物 1	降圧薬・利尿薬・狭心症治療薬・心不全治療薬	豊平由美子
9	月 日	循環器系に作用する薬物 2	抗不整脈等治療薬・脂質異常症治療薬・血液凝固系・血液に作用する薬物	豊平由美子
10	月 日	中枢神経系に作用する薬 1	中枢神経系の働きと薬物、全身麻酔薬・催眠薬・抗不安薬・麻薬性鎮痛薬	豊平由美子
11	月 日	中枢神経系に作用する薬 2	抗精神病薬・抗うつ薬・パーキンソン症候群・抗てんかん薬	豊平由美子
12	月 日	薬害問題を考える	薬害（B型肝炎ウイルスを含む）について、発生の機序と経緯、行政・企業の対応、被害者側に起こった問題等に関する研究発表及び討論	豊平由美子
13	月 日	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	呼吸器系・消化器系・生殖器系に作用する薬	豊平由美子
14	月 日	物質代謝に作用する薬物	ホルモンとホルモン拮抗薬・甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン、骨粗鬆症治療薬、治療薬としてのビタミン	豊平由美子
15	月 日	薬物療法の実際	皮膚使用薬、眼科用薬、救急に用いられる薬、消毒薬・漢方薬・輸液製剤・輸血剤 薬理学まとめ	豊平由美子

評 価	筆記試験、授業態度及び出席状況等により総合的に判定 100 点中 60 点以上が合格
教科書	吉岡充弘他【著】系統看護学講座 専門基礎分野 『疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学』 第 14 版 医学書院 2018 講義資料を配付する
参考図書等	田中千賀子・加藤隆一【編】『NEW 薬理学』改訂第 7 版 南江堂 2017
留意事項	レポート提出および講義中に小テストを実施する場合があります。

オフィスアワー等 質問は随時受け付けますので、口頭、出席票への記入、メール等で質問して下さい。詳細は初回講義時に説明します。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
リハビリテーション概論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	神島滋子

授 業 概 要
日本の医療の高度化により死亡率は低下した反面、障害をもつ人は増加した。また、高齢化によっても障害をもつ人は増加している。障害をもつ人々の生活の質を高めるリハビリテーションの概念は、当事者およびその家族にとって重要である。リハビリテーションにおける看護は対象である人間を、健康障害や障害を持ちながらも生活者としてとらえ、その人らしく生きることを支援し生活の質(QOL)を高めていけるように援助することにある。リハビリテーションの必要な人を支援するための基礎的知識として、リハビリテーションの定義や歴史、倫理、種類およびリハビリテーションに関連する概念や、看護におけるリハビリテーションについて学修する。

到 達 目 標
1. リハビリテーションとは何か説明できる
2. リハビリテーションの種類と特徴を説明できる
3. 看護におけるリハビリテーションについて説明できる
4. リハビリテーションの対象を生活者としてとらえる ICF について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：提示する教科書を読んでおく（各単元に関連する項目は提示する） 各単元で学びたいことを明らかにし、自ら学修目標を立てて望む
事後学修：各単元において事前学修で立てた目標を評価し、疑問を解決する

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	リハビリテーションとは	ガイダンス リハビリテーションの歴史・定義、障害とは	神島滋子
2	月 日	リハビリテーションにおける倫理、法律、施策	リハビリテーションの領域、障がい者の権利、法律とサービス	神島滋子
3	月 日	国際生活機能分類 (ICF) とは	ICIDH と ICF、ICF で人間の生活を考える	神島滋子
4	月 日	リハビリテーション看護	リハビリテーション看護とは、リハビリテーション看護の対象	神島滋子
5	月 日	リハビリテーション看護の方法	片麻痺体験を通しアセスメント、援助方法（セルフケアの援助を中心に）について考える	神島滋子
6	月 日	地域におけるリハビリテーション	地域におけるリハビリテーション	神島滋子
7	月 日	健康障害とリハビリテーション	健康障害とリハビリテーション	神島滋子
8	月 日	専門職とリハビリテーション	理学療法・作業療法・言語療法と看護	神島滋子

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	ナーシング・グラフィカ リハビリテーション看護 (成人看護学⑤) メディカ出版
参考図書等	国際生活機能分類 中央法規
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
家族看護論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	木下みゆき

授 業 概 要

家族とは、システムとしての特徴を有しながら発達している 1 単位の生命体である。しかし、個人化が進み社会システムにおいて、家族構成員個々の選択と決定が優先されるようになり、家族が抱える問題も様々な形で多発している。特に健康問題に関しては、家族を 1 単位として看護の対象と捉え、家族が持てる力を発揮し、問題解決能力を高める援助方法を理解することが望まれる。この科目では、家族及び家族関係についての理解を深め、それらの家族への支援の方法を健康段階ごとに学ぶ。また、病と家族の苦悩について理解を深めることを目的とする。

到 達 目 標

1. 看護の対象としての家族の理解の方法について述べるができる
2. 家族を援助するときの基本姿勢について理解できる
3. 家族をアセスメントでき、家族看護の展開方法を理解できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当するテーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	○ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	家族の基本概念	家族とは、家族看護の特徴と理念、家族看護の実践の場面	木下みゆき
2	月 日	家族看護の基盤理論 家族の発達理論	家族を理解するための基盤理論、家族の発達段階における課題	木下みゆき
3	月 日	家族システム理論 家族アセスメント（ジェノ グラム・エコマップ）	家族構造、家族機能、家族システム理論（特にカルガリー家族看護モデルを中心に）	木下みゆき
4	月 日	健康問題を持つ家族への 看護 1（急性期・慢性期）	さまざまな健康段階における家族看護の実際	木下みゆき
5	月 日	健康問題を持つ家族への 看護 2（終末期・回復期）	さまざまな健康段階における家族看護の実際	木下みゆき
6	月 日	家族の苦悩について	家族関係について理解を深め、それぞれの家族の苦悩について考える（グループワーク）	木下みゆき
7	月 日	家族の苦悩について	家族関係について理解を深め、それぞれの家族の苦悩について発表する	木下みゆき
8	月 日	家族看護の実際と課題	家族の多様性、現代家族の課題	木下みゆき

評 価	客観試験（100%）
教科書	1. 上別府圭子系 統看護学講座別巻 家族看護学 医学書院（879-4-260-03192-9）2018 2. 小林奈美 グループワークで学ぶ家族論 医歯薬出版
参考図書等	1. 森山美知子 ファミリーナーシングプラクティス 医学書院 2. 鈴木和子・渡辺裕子 家族看護学理論と実践第 4 版 日本看護協会出版会
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門職連携教育 I (専門職連携の基礎)	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	白石裕子 竹元仁美 池田敏子 寺岡祥子 玉利誠 阿波那彦 松本典久 中山広宣 江口喜久雄

授 業 概 要

保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。

到 達 目 標

1. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる
2. チームビルディングの理論と実際について説明できる
3. 各医療専門職の種類と機能について説明できる
4. ふれあい体験やグループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	○ (DP4)	◎ (DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		オリエンテーション	・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？ ・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携	全員
2		国際疾病分類の理念	・専門職種間連携教育 (IPE) の展開のための基礎知識 1 ・国際疾病分類 (WHO ICF) の理念	全員
3		チーム医療とチームビルディング	・チーム医療のあり方、メンバーシップとは ・チームビルディングの理論と実際	全員
4		チームビルディングの実際	チームを作り課題に取り組む (チームメンバー発表 自己紹介)	全員
5		チームで討議	課題に対する評価 (計画性 協調性 参加の状況 リーダーシップ メンバーシップ等)	全員
6		IPE の基礎	・IPE 展開のための基礎知識 ・医療と福祉の接点	全員
7		医療専門職の種類と機能①	医師、放射線技師、管理栄養師の役割・教育・機能	全員
8		医療専門職の種類と機能②	看護師、薬剤師、管理栄養師の役割・教育・機能	全員
9		医療専門職の種類と機能③	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の役割・教育・機能	全員
10		医療福祉専門職間の連携	専門職連携の理論と実際	全員
11		地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験	ふれあい体験学修 GW	全員
12		地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験	ふれあい体験学修 GW	全員
13		ふれあい体験振り返り	体験学修を振り返り意見交換を行う 発表準備	全員
14		グループ発表	各グループ発表	全員
15		総括	自職種の機能と役割、専門職種との連携に必要なことをまとめる	全員

評 価	課題レポート(100%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
看護学概論	講義	2 単位 (30 時間)	1 年前期	辻慶子

授 業 概 要

看護学概論は、「看護とは何か」という看護の本質を多角的に追究し、看護学全体の基本的な知識を学修する。具体的には、看護の変遷、看護の基本的概念である「人間」、「健康」、「環境」、「看護」を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践を支える知識体系、対象の健康を保持・増進、あるいは発達段階に応じた生活（QOL）を支えるケアの実施ができるように学修する。また、看護倫理や医療安全についても考え看護専門職としての役割・機能について学ぶ。

到 達 目 標

1. 看護の基本概念を説明できる
2. 看護歴史の変遷を説明できる
3. 現代社会における看護活動の場の特性と看護の役割、機能を説明できる
4. 看護実践に関連する看護倫理や医療安全を説明できる
5. 専門職としての看護の将来について、自分の考えを述べることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応 DP	<input type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input checked="" type="radio"/> (DP3)
	<input type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	ガイダンス 看護とは	①看護を学ぶにあたって ②看護の原点 ③看護の定義	辻慶子
2	月 日	看護の歴史の変遷	① 看護を歴史・教育・制度 ②看護と社会のできごととの関連	辻慶子
3	月 日	ナイチンゲール「看護覚え書」	①ナイチンゲールの経歴・業績 ②「看護の覚え書」の特徴 ③ナイチンゲールの病気の定義、健康の考え方	辻慶子
4	月 日	人間理解	①生活する人々と看護の関係 ②発達・変化するものとしての人間 ③家族の構造と機能 ④地域と文化	辻慶子
5	月 日	環境理解	①人間と環境の関係 ②環境の変化と対処規制 ③健康に関与するストレス ④ストレスの対処行動	辻慶子
6	月 日	ライフサイクルと健康	①人の成長と発達の特徴 ②フロイト・エリクソン・ハヴィガートスの発達理論 ③小児期から老年期に至るまでの健康上の特徴	辻慶子
7	月 日	看護実践と看護倫理	①看護技術の特性 ②看護における倫理の重要性 ③倫理の原則 ④医療・看護における患者の権利	辻慶子
8	月 日	看護と保健・医療・福祉との連携	①保健・医療・福祉の基盤となる法律 ②保健・医療・福祉で提供されているサービスの目的 ③保健・医療・福祉における看護の特徴と看護職の役割	辻慶子
9	月 日	看護と法律・看護制度・看護行政	①看護にとって政策の重要性 ②看護を取りまく主な法律 ③わが国の看護職の資格 ④看護現場における業務と法律の関連	辻慶子
10	月 日	医療安全	①医療安全の概念 ②医療事故の概念 ③看護業務との関連	辻慶子
11	月 日	看護の専門性	①専門職の定義や基準 ②専門職としての看護の歴史の変遷 ③専門看護師、認定看護師、認定看護管理者の現状 ④専門職としての責務	辻慶子
12	月 日	看護の展開	①クリティカルシンキングとは ②看護実践における問題解決過程とクリティカルシンキングの意義 ③看護過程を展開するうえで留意すべき原則	辻慶子
13	月 日	看護の国際化	①国際的な健康問題 ②国際協力 ③文化を超えた看護の必要性	辻慶子
14	月 日	産業看護	①産業看護の定義 ②産業看護の目的・特徴 ③産業保健	辻慶子
15	月 日	看護の展望と課題	① これからの看護に求められる役割 ②専門職としての組織および看護実践の基準	辻慶子

評 価	筆記試験（70%）、課題レポート（20%）、グループ発表（10%）を総合して 60 点以上を合格とする
教科書	1. 高橋照子編集 看護学原論（南山堂） 2. フロレンス・ナイチンゲール著 小玉香津子・尾田葉子訳看護覚え書—本当の看護とそうでない看護—（日本看護協会出版会） 3. ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
看護実践論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	辻慶子

授 業 概 要

看護を実践するためにはやみくもに行動するのではなく、科学的根拠が必要になる。看護の対象の生活（QOL）を支え、よりよい健康を保持するために必要な理論を学ぶ。看護理論は多くの先人の研究のもとに構築された看護に不可欠なものである。本科目ではヴァージニア・ヘンダーソン、ドロセア E. オレム等の看護理論について学び、科学的に看護を実践する礎とする。看護実践の際は知識・技術とともに看護者としての態度も重要である。ここでは看護者として求められる「人間性」についても理解する。

- 到 達 目 標
1. 看護実践の基盤となる看護理論の概念、特徴を説明できる
 2. 看護者の人間性を向上させる必要性を説明できる
 3. 看護者の人間性を向上させるための方法が説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	ガイダンス 看護実践論	①科目のガイダンス ②看護実践とは	辻慶子
2	月 日	看護に求められる人間性	① 人間性とは ②その人らしさ	辻慶子
3	月 日	治る力を引き出す	①自然治癒力 ②看護の可能性	辻慶子
4	月 日	看護理論①	①ヴァージニア・ヘンダーソン ②ドロセア E. オレム	辻慶子
5	月 日	看護理論②	①ヒルデガード E. ペプロウ ②ジョイス・トラベルビー	辻慶子
6	月 日	看護理論③	①シスター・カリスト・ロイ ②キング	辻慶子
7	月 日	手によるケアの重要性①	①触れる・癒す ②ケアリング	辻慶子
8	月 日	手によるケアの重要性②	①手を用いたケアの実際	辻慶子

評 価	筆記試験（70%）、課題レポート（30%）を総合して 60 点以上を合格とする
教科書	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
生活援助技術	演習	2単位 (60時間)	1年前期	大村由紀美 児玉裕美 辻慶子 松井聡子

授 業 概 要

看護の対象となる生活する人間の日常生活行動を理解し、安全・安楽・自立に考慮した援助を提供するために必要な基礎的知識を学ぶ。基本的な看護援助技術として看護におけるコミュニケーション、観察・記録・報告、スタンダードプリコーション、ベッドメイキング、移動、清拭、寝衣交換、洗髪、足浴、食事の介助などを修得する。提供する看護技術のどれもが対象の健康や生活の質（QOL）に影響する。併せて日常生活援助技術を行う上での倫理的配慮や看護者としての態度についても学修する。

到 達 目 標

- 日常生活援助の目的や意義について説明できる
- 看護援助に共通する技術の基礎的な知識について説明できる
- 日常生活援助の基盤となる安全・安楽・自立の概念について説明できる
- 日常生活援助技術の基礎的な知識について説明できる
- 日常生活援助技術における科学的根拠に基づく技術を修得できる
- 日常生活援助を行う上で必要な態度、倫理的配慮を理解した行動ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをし、看護技術については自主的に練習に取り組む

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	日常生活援助技術とは	①ガイダンス ②看護基本技術Ⅰについて	全員
2	月 日	コミュニケーション技術	①コミュニケーションの意義 ②看護におけるコミュニケーション ③コミュニケーション構成要素と成立過程 ④効果的なコミュニケーションの基礎的技術	全員
3	月 日	観察・記録・報告	①看護における観察・記録・報告の意義 ②観察・記録・報告の定義・目的・種類・手法・視点および留意点	全員
4	月 日	感染防止の技術	①感染防止の基礎知識 ②標準予防策（スタンダードプリコーション）	全員
5	月 日	環境調整技術①	①病床・病室の生活環境の調整 ②リネン類の扱い方 ③ベッドメイキング	全員
6	月 日	環境調整技術②	①生活環境の調整技術 ②臥床患者のリネン交換	全員
7	月 日	活動と休息援助技術①	①基本的活動の基礎知識 ②基本的活動の援助 ③活動の調整技術	全員
8	月 日	活動と休息援助技術②	①休息・睡眠の基礎知識 ②休息・睡眠への援助	全員
9	月 日	演習：感染防止の技術	①基礎看護学実習室オリエンテーション ②衛生的手洗い ②標準予防策の実際	全員
10	月 日	演習：ベッドメイキング①	①シーツのたたみ方 ②ベッドメイキング（クローズドベッド・オープンベッド）の実際	全員
11	月 日	演習：ベッドメイキング②	①ベッドメイキング（クローズドベッド・オープンベッド）の実際	全員
12	月 日	演習：リネン交換	①臥床患者のシーツ交換の実際	全員
13	月 日	演習：体位変換	①体位保持（仰臥位・側臥位、セミファーラー位・ファーラー位） ②体位変換	全員
14	月 日	演習：移乗・移送①	①車いすの点検 ②車いすへの移乗 ②車いすでの移送	全員
15	月	演習：移乗・移送②	①ストレッチャーの点検 ②ストレッチャーへの移乗 ③ストレッチャーでの移送	全員

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
	日			
16	月 日	衣生活援助技術	①衣服を用いることの意義 ②衣服と病衣の選択条件 ③寝衣交換の目的と方法	全員
17	月 日	清潔援助技術①	①身体の清潔の意義 ②清潔行動に影響を与える因子 ③清潔援助の適応 ④清潔保持のための看護師の役割 ⑤患者の状態に応じた清潔援助方法の選択と留意点 ⑥洗浄剤の特徴	全員
18	月 日	清潔援助技術②	①清潔の援助の実際（入浴・シャワー浴、全身清拭、手浴、足浴、陰部洗浄、洗髪、整容、口腔）	全員
19	月 日	演習：寝衣交換	①寝衣交換	全員
20	月 日	演習：全身清拭①	①全身清拭(1)の実際	全員
21	月 日	演習：全身清拭②	①全身清拭(2)の実際	全員
22	月 日	演習：洗髪①	①洗髪（洗髪台、ケリーパッド）の実際	全員
23	月 日	演習：洗髪②	①洗髪（洗髪台、ケリーパッド）の実際	全員
24	月 日	演習：足浴	①足浴の援助の実際	全員
25	月 日	食事援助技術①	①食事に関する基礎知識 ②食事の意義 ③消化・吸収のプロセス ④栄養状態および摂食能力のアセスメント ⑤食事への援助	全員
26	月 日	食事援助技術②	①健康障害と食事援助 ②健康障害のある対象への援助技術 ③非経口的栄養	全員
27	月 日	演習：食事介助・口腔ケア ①	①経口摂取の援助の実際 ②口腔ケアの実際	全員
28	月 日	演習：食事介助・口腔ケア ②	①経口摂取の援助の実際 ②口腔ケアの実際	全員
29	月 日	技術確認①	①清拭 ②寝衣交換	全員
30	月 日	技術確認②	①清拭 ②寝衣交換	全員

評 価	筆記試験（60%）、課題レポート（30%）、実技試験（10%）を総合的に評価し 60 点以上を合格とする
教科書	系統看護学講座 専門3 基礎看護技術2 医学書院
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
ヘルスアセスメント	演習	1単位 (30時間)	1年後期	松井聡子 辻慶子 児玉裕美 大村由紀美

授 業 概 要

既修の人体構造学やコミュニケーション論を活用しながら、看護の対象である「人間」の健康課題を把握するために身体的・精神的・社会的側面からアセスメントする意義を理解する。これは対象を全人的に理解し、看護を科学的に実践する基本となる。ヘルスインタビューやフィジカルイグザミネーションの技術を修得し、ヘルスアセスメントの方法を学ぶ。対象への問診・視診・聴診・打診・触診の技術を通して、科学的根拠に基づいて対象の健康課題に対応できるように学修する。

- 到 達 目 標
1. 看護におけるヘルスアセスメントの目的と意義を説明できる
 2. 全身を概観する必要性について説明できる
 3. バイタルサインの基本的知識・技術を修得できる
 4. フィジカルイグザミネーションの基本的な技術を修得できる
 5. 問診、フィジカルイグザミネーションで得た情報をもとに対象のヘルスアセスメントができる
 6. ヘルスアセスメントを行ううえでの倫理的配慮・態度を遵守できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	<input type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input checked="" type="radio"/> (DP3)
DP	<input type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	ガイダンス ヘルスアセスメントの概 要	①ヘルスアセスメントの意義・目的 ②ヘルスアセスメントに必要な技術 ③ヘルスア セスメントに必要な配慮	全員
2	月 日	全身の概観	①ヘルスインタビュー ②全体の概観 ③ヘルスインタビューの実際	全員
3	月 日	バイタルサイン①	①バイタルサイン測定の意義 ②バイタルサイン測定のための基礎知識 ③体温・ 脈拍・呼吸測定の目的・方法	全員
4	月 日	バイタルサイン②	①血圧計の各部位の名称・仕組み ②血圧測定の目的・方法 ③意識レベル	全員
5	月 日	演習：バイタルサイン①	体温・脈拍・呼吸・血圧のアセスメントの実際①	全員
6	月 日	演習：バイタルサイン②	体温・脈拍・呼吸・血圧のアセスメントの実際②	全員
7	月 日	演習：バイタルサイン③	体温・脈拍・呼吸・血圧のアセスメントの実際③	全員
8	月 日	消化器のアセスメント	①腹部・消化器のフィジカルアセスメントの目的 ②腹部・消化器のフィジカルイグザ ミネーションとフィジカルアセスメント ③腹部・消化器のフィジカルイグザミネー ションに必要な倫理的配慮	全員
9	月 日	運動器のアセスメント	①筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 ②筋・骨格系のフィジカルイグザミ ネーションとフィジカルアセスメント ③筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションに 必要な倫理的配慮	全員
10	月 日	演習：消化器・運動器	①腹部の問診・視診・聴診・打診・触診 ②筋・骨格系のアセスメント：歩行状態およ び全身と身体各部の視診・触診、ROM の測定など	全員
11	月 日	呼吸・循環器アセスマ ン	①呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントの目的 ②呼吸器・循環器のフィジカルイ グザミネーションとフィジカルアセスメント ③胸部のフィジカルイグザミネーショ ンに必要な倫理的配慮	全員
12	月 日	演習：呼吸・循環器系	①胸部の基準線の確認 ②心臓の解剖学的位置の確認 ③問診・視診・触診・打診・聴 診	全員

回数	日程	単元	内 容	担当教員
13	月 日	神経系のアセスメント・ ヘルスアセスメント	①神経系のフィジカルアセスメントの目的 ②神経系のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント ③神経系のフィジカルイグザミネーションに必要な倫理的配慮	全員
14	月 日	技術確認①	バイタルサインの確認	全員
15	月 日	技術確認②	バイタルサインの確認	全員

評 価	筆記試験（60%）、課題レポート（30%）、実技試験（10%）を総合的に評価し 60 点以上を合格とする
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術① 基礎看護学② 医学書院
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
生活援助実習	実習	1 単位 (45 時間)	1 年後期	<u>辻慶子</u> 児玉裕美 松井聡子 大村由紀美

授 業 概 要

看護の対象者に対し、コミュニケーション技術を用いて援助的人間関係を構築することを学ぶ。看護師の指導を受けながら対象者の生活援助を安全・安楽・自立に考慮しながら実施し、生活援助に必要な知識・技術・態度を修得する。日常生活行動が、健康課題に及ぼす影響を考え、患者の個性を踏まえた援助の方法や看護の機能を学ぶ。また、患者とのコミュニケーションや看護実践を通して、インフォームドコンセントや患者の権利を学び看護専門職として求められる基礎的態度や倫理的配慮を学ぶとともに、病棟における看護師の役割や多職種との役割について明確にする。

到 達 目 標

1. 病棟における看護活動の実際について説明できる。
2. 対象者とコミュニケーションを図ることができる。
3. 対象者を生活者の視点で捉え、療養環境の調整ができる。
4. 対象に必要な日常生活援助を、安全・安楽・自立・倫理的配慮を踏まえて実施できる。
5. 看護専門職チームの一員として行動ができる。
6. 専門職として倫理観に基づく基本的態度で行動できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

- 事前学修
1. 生活援助技術に関して技術練習をしておく。
 2. コミュニケーションについてシミュレーションで事前に実施しておく。
 3. バイタルサインの測定について、条件が違う例で練習しておく。
- 事後学修
1. 日々のカンファレンスの学びを明らかにする。
 2. 実習期間（1週間）を通して看護者としての課題を明らかにする。

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

授 業 の 進 め 方

1. 実習日程：1週間（令和5年後期）
2. 実習場所：福岡和白病院、福岡新水巻病院
3. 実習内容
 - 1) 臨床における看護師の役割、活動、療養環境に関するオリエンテーションをうける
 - 2) 担当看護師と一緒に、受け持ち患者の日常生活援助を見学、実施する
 - 3) 受け持ち患者とコミュニケーションを図る
 - 4) 実施した日常生活援助やコミュニケーションを振り返り、患者にとっての援助の適切性や今後の自己課題を明確にする
4. 実習記録について
 - 1) 所定の記録用紙に記録する。記録用紙は別途提示する
 - 2) 記入方法・管理については、臨地実習要項および手引き・記録様式を参照する
 - 3) 提出（提出記録・方法・提出期限）については、手引きを参照する

日数	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
AM	学内オリエンテーション	病棟実習	病棟実習	病棟実習	学内実習
PM	病院・病棟オリエンテーション		学内実習		

評 価	評価表に基づき評価する
教科書	・茂野香おる他「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I」(医学書院) ・任和子他「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 II」(医学書院)
参考図書等	
留意事項	(事前) ①心理学、人間関係論、発達心理学、看護実践論、看護基本技術 I・II、の講義内容の復習をしておく。 ① シュミレーションセンターで看護技術（生活援助技術）の復習をしておく。

	(事後) ①毎日の実習のまとめを行い、不足の学修を追加する。 ②次の学修課題を明らかにし、学修に取り組み実習の準備を行う。
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
看護職のキャリア出発とキャリアデザイン	講義	1単位 (15時間)	1年前期	辻慶子 児玉裕美

授業概要
看護専門職としての大学および生涯教育への導入を図るとともに、大学人として求められる自律性と社会人基礎能力育成の基盤とする。医療はとどまることなく変化している。その変化する社会に求められる看護について考え、自立的に自分の未来について看護職者としてあるべきイメージを描き、そのためには何をすべきかを思考し、学修ビジョンを明確にし、生涯にわたって看護に携わる者として人格の涵養に努め、学び続ける意欲を維持し自己実現できる礎となるように学修する。

到達目標
1. 現代社会に求められる看護について述べることができる 2. 看護専門職の専門分野とキャリアについて説明できる 3. 看護を学ぶ自己のキャリア形成を考えることができる

事前学修・事後学修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	(DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	◎ (DP6)

回数	日程	単元	内容	担当教員
1	月 日	ポートフォリオの活用	①ポートフォリオとは ②ポートフォリオの活用方法	辻慶子 児玉裕美
2	月 日	現代社会に求められる看護	①医師の立場から ②看護の立場から	辻慶子 児玉裕美
3	月 日	キャリア教育と看護基礎教育	①看護教育とは ②本学での教育課程とキャリア教育のつながり	辻慶子 児玉裕美
4	月 日	専門職としての看護	① 専門職とは ②専門職として必要な知識・技術・態度 ③看護職のキャリア	辻慶子 児玉裕美
5	月 日	大学生活(就職)のデザイン	①社会人基礎能力 ②キャリア形成の準備 ③キャリアデザインを創る	辻慶子 児玉裕美
6	月 日	看護職のキャリア	①認定看護師の立場から ②専門看護師の立場から ③高度実践看護師の立場から	辻慶子 児玉裕美
7	月 日	グループワークの基礎知識	①グループワークの基礎知識 ②グループワークの実際	辻慶子 児玉裕美
8	月 日	看護におけるリフレクション	① 看護におけるリフレクション ②個人でのリフレクション	辻慶子 児玉裕美

評価	課題レポート (80%)、最終成果物 (20%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	